



国際関係論入門

早稲田大学政治経済学術院

多湖淳



さらに、おさらい: ナイ・ウェルチは大丈夫か？

例、**同盟の2極化**と**(米ソ)2極化**は、同じではないのか？

DAVID SINGERの第一法則

理論とは何か

* 同じ枠組みから枝分かれして、結果を全て説明できると良い

参考: 囚人のジレンマゲーム(同時手番・1回きり、同・無限繰り返し)

第7回：合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

第8回：内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

第9回：国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

第10回：グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

第11回：情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

第12回：現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

第13回：オンライン試験

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

- バーゲニングと戦争のコスト
- 三大戦争原因
- 抑止と安全保障のジレンマ
- 安心共同体 (SECURITY COMMUNITY) という答え？ 共通の価値と安心供与
- 民主的平和論
- 民主的平和論への対抗的議論 (報道の自由の平和、商業的平和、領土の平和)

三大戦争原因


- 情報の非対称性（戦争は情報が完備でないから、不確実だから起こる）
- コミットメント問題（国際関係はアナーキー：情報が完備でも戦争は起こる）
- 価値不可分性（分けられないパイについては戦争が起こる）

民主的平和論

- 規範的議論
 - 制度的議論
 - 戦略的議論
-
- 民主化は平和を作る？
 - みかけの相関？



安全保障の政策選択肢

- 抑止
自前の**軍拡**による抑止
同盟による抑止
 - 安心供与
安全保障のジレンマ対策
制度化（例、憲法）による自制
 - 安心共同体
共通の利益
われわれ意識
- 

インタビュー

安全保障と民主主義

抑止と安心供与 両方を備えてこそ リアリズム持つ

国際政治学者の石田淳さん。抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。

——抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。

——抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。

——抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。

——抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。

国際政治学者

石田 淳 さん

1969年生まれ。東大教授。リアリズムを踏まえた国際政治学を研究。防衛の観点として知られる。著書『防衛と外交』。

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

権力過信許さぬ 国民の監視が 海外の不信緩和

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」



「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

「抑止と安心供与の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。石田さんは、安全保障と民主主義の両方を備えてこそ、リアリズムを持つべきと主張する。」

内戦

journal of
peace
RESEARCH

© 2004 *Journal of Peace Research*,
vol. 41, no. 3, 2004, pp. 275–301
Sage Publications (London, Thousand Oaks, CA
and New Delhi) www.sagepublications.com
DOI 10.1177/0022343304043770 ISSN 0022-3433

Why Do Some Civil Wars Last So Much Longer Than Others?*

JAMES D. FEARON

Department of Political Science, Stanford University

Figure 1. Number and Duration of Civil Wars in Progress

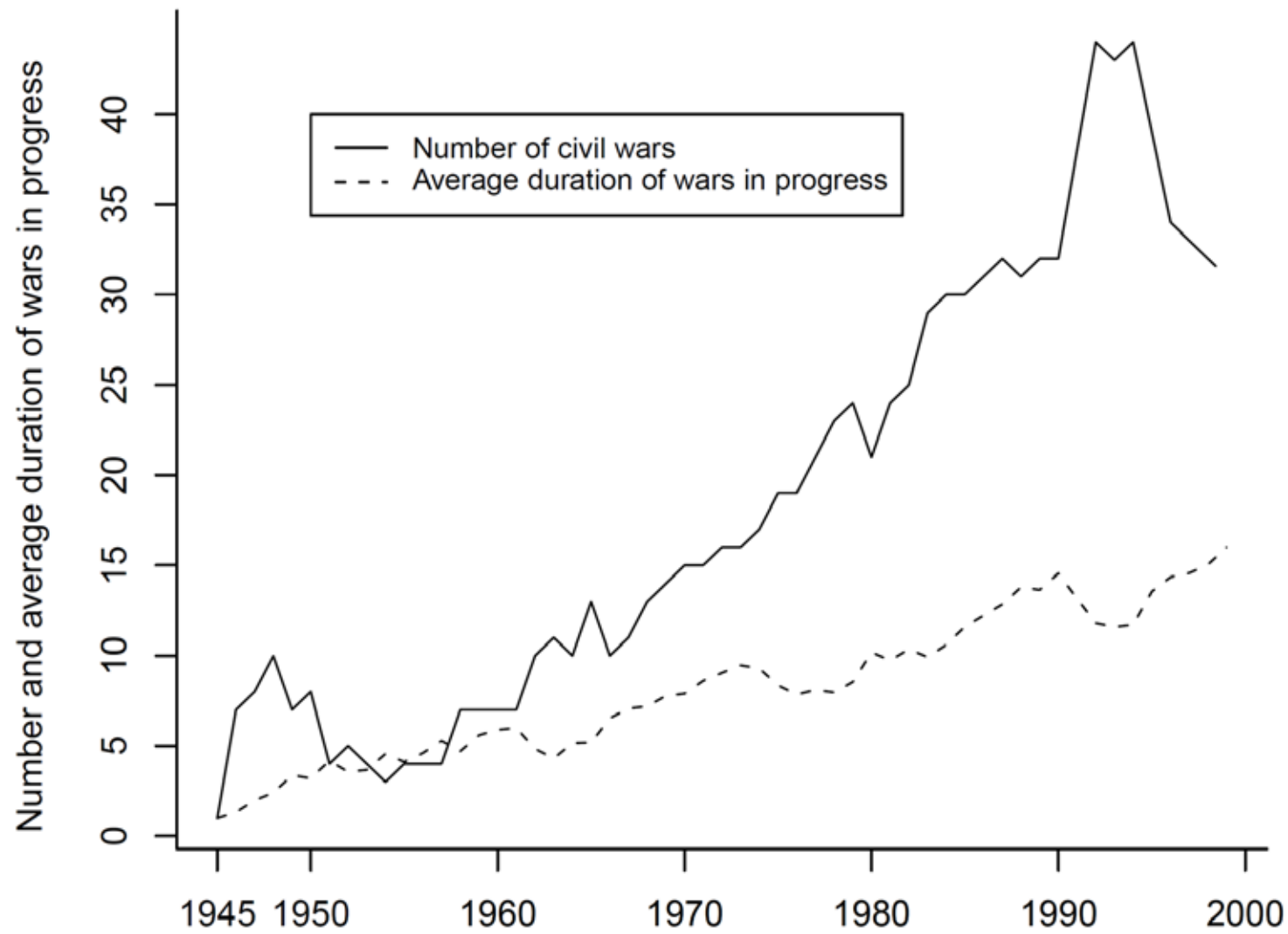


Table I. Estimated Median and Mean Civil War Duration by Region

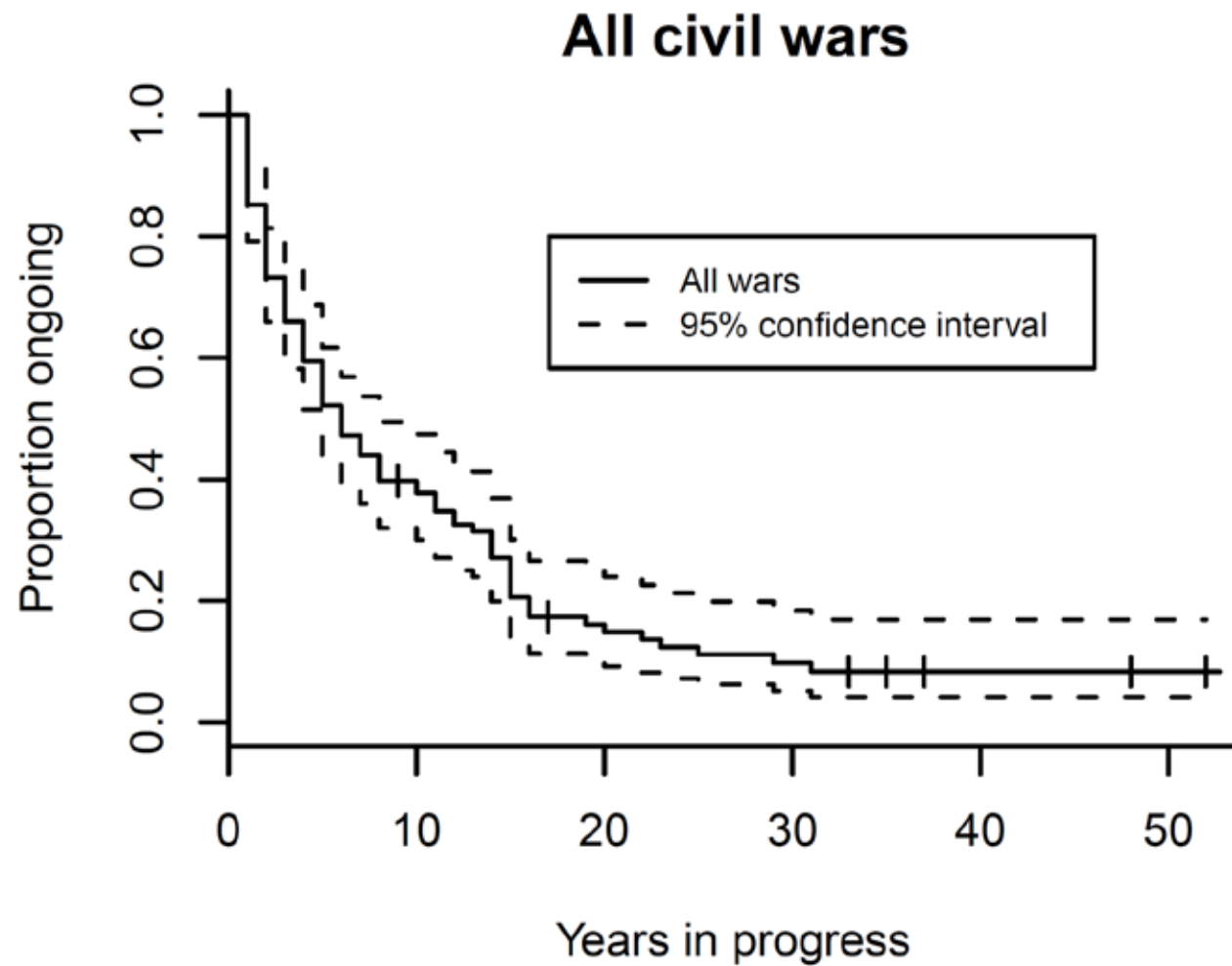
<i>Region</i>	<i>Median</i>	<i>Mean</i>	<i>N</i>
Eastern Europe	2.3	3.2	13
North Africa/Middle East	4.7	6.7	17
Western Europe + US/Canada/Japan*	6.0	8.5	15
Latin America	6.9	9.8	15
Sub-Saharan Africa	9.1	13.1	34
Asia	12.2	17.5	34

* 13 anti-colonial wars + Northern Ireland (1969–99) and Greece (1945–49).

地域差は「説明」になるか？

- 因果のメカニズムを特定し、それをうまく要因としてつきとめ、その指標を得ないといけない
 - たとえば、資源
 - たとえば、差別（社会的な不平等）
-
- なお、今回は、なぜある内戦が長引くか、で考えてみよう。

Figure 2. Proportion of Civil Wars Ongoing, by Year



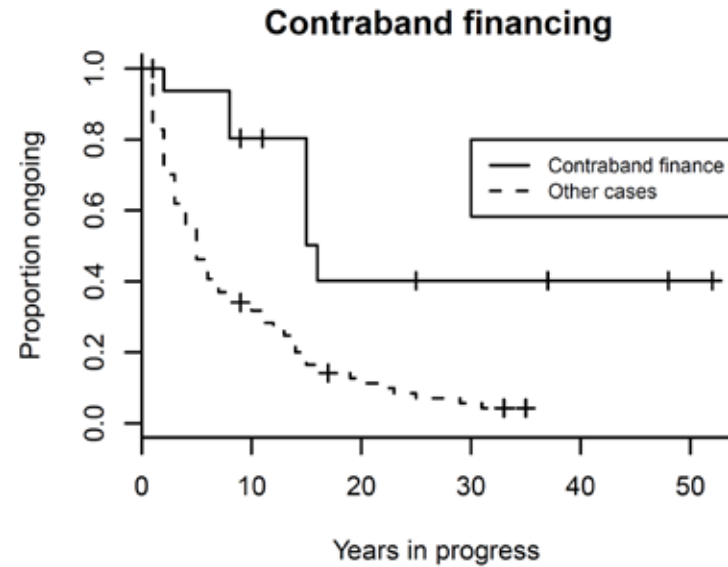
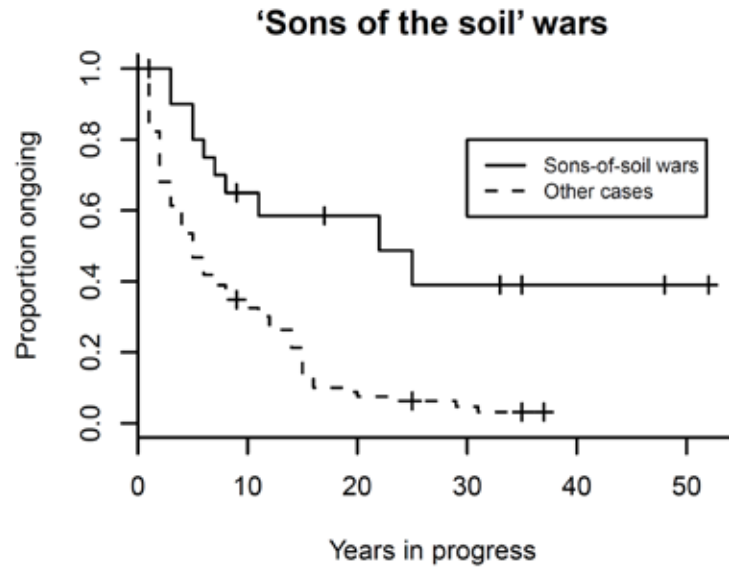
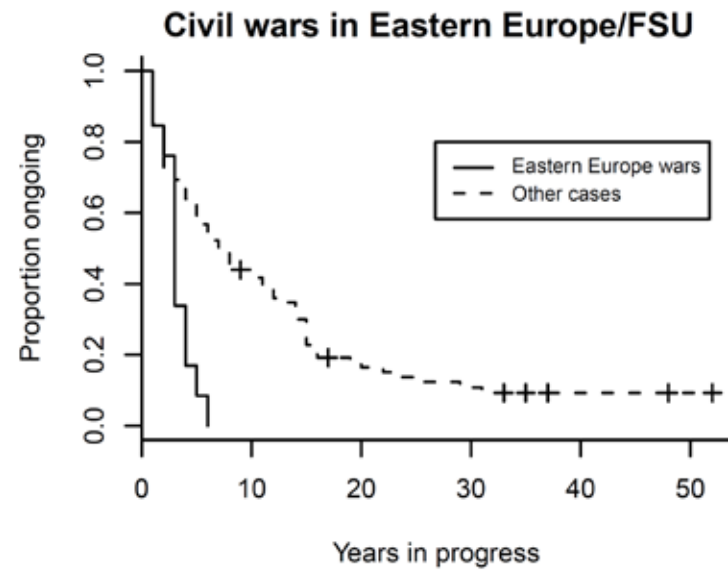
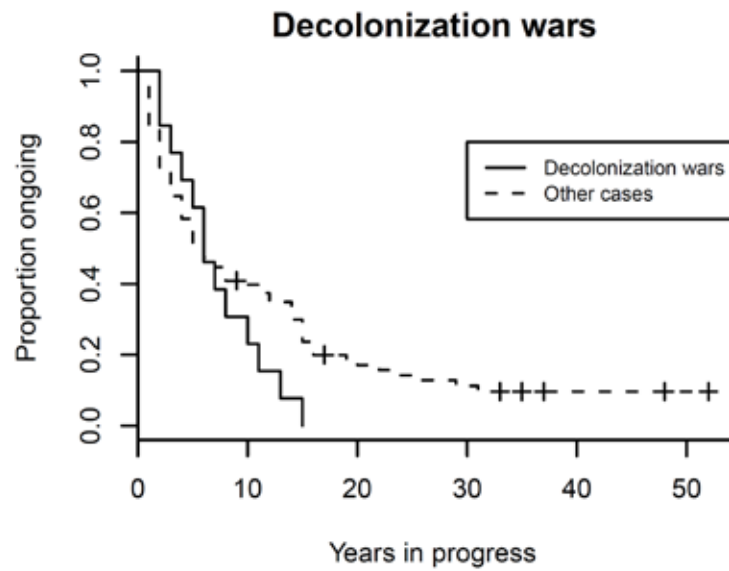


Table II. Determinants of Civil War Duration, 1945–99

	<i>Model</i>						
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
Coup/revolution	0.320** (5.36)	0.346** (4.87)	0.335** (5.08)	0.312** (5.20)	0.349** (4.66)	0.309** (5.30)	0.313** (5.38)
Eastern Europe	0.330** (4.21)	0.322** (4.34)	0.375** (3.32)	0.335** (4.13)	0.313** (4.35)	0.335** (4.01)	0.341** (3.41)
Not contiguous	0.684 (1.62)	0.591* (2.03)	0.709 (1.49)	0.705 (1.41)	0.644 (1.81)	0.629 (0.96)	0.683 (1.60)
Sons of the soil	3.102** (3.86)	3.150** (3.94)	3.016** (3.81)	3.125** (3.89)	2.988** (3.69)	3.472** (3.10)	2.885** (3.47)
Contraband	2.562** (2.76)	2.568** (2.80)	2.618** (2.86)	2.571** (2.77)	2.709** (2.89)	2.460* (2.53)	2.551** (2.72)
Ethnic fractionalization ([0,1])		1.546 (1.36)					
GDP/capita (lagged, in 1000s)			0.914 (1.34)				
log(Population) (lagged)				0.977 (0.37)			
'Ethnic war' (1,2,3)					1.126 (1.15)		
Democracy (–10 to 10, lagged)						1.012 (0.85)	
log(Deaths/year)							0.952 (0.95)
<i>p</i>	1.21	1.22	1.22	1.21	1.21	1.17	1.20
se(<i>p</i>)	.09	.08	.08	.09	.08	.10	.09
N	128	128	124	128	127	114	122
N(ended)	103	103	99	103	103	89	97

Weibull regression with duration in years as the dependent variable. Coefficients in the table report the estimated multiplicative effect of a one-unit change in the independent variable on mean war duration; e.g. .32 means that a one-unit change is associated with a reduction in mean war duration by a factor of about three. *t*-statistics are in parentheses. Estimations performed using Stata 7.0. **p* < .05; ***p* < .01.

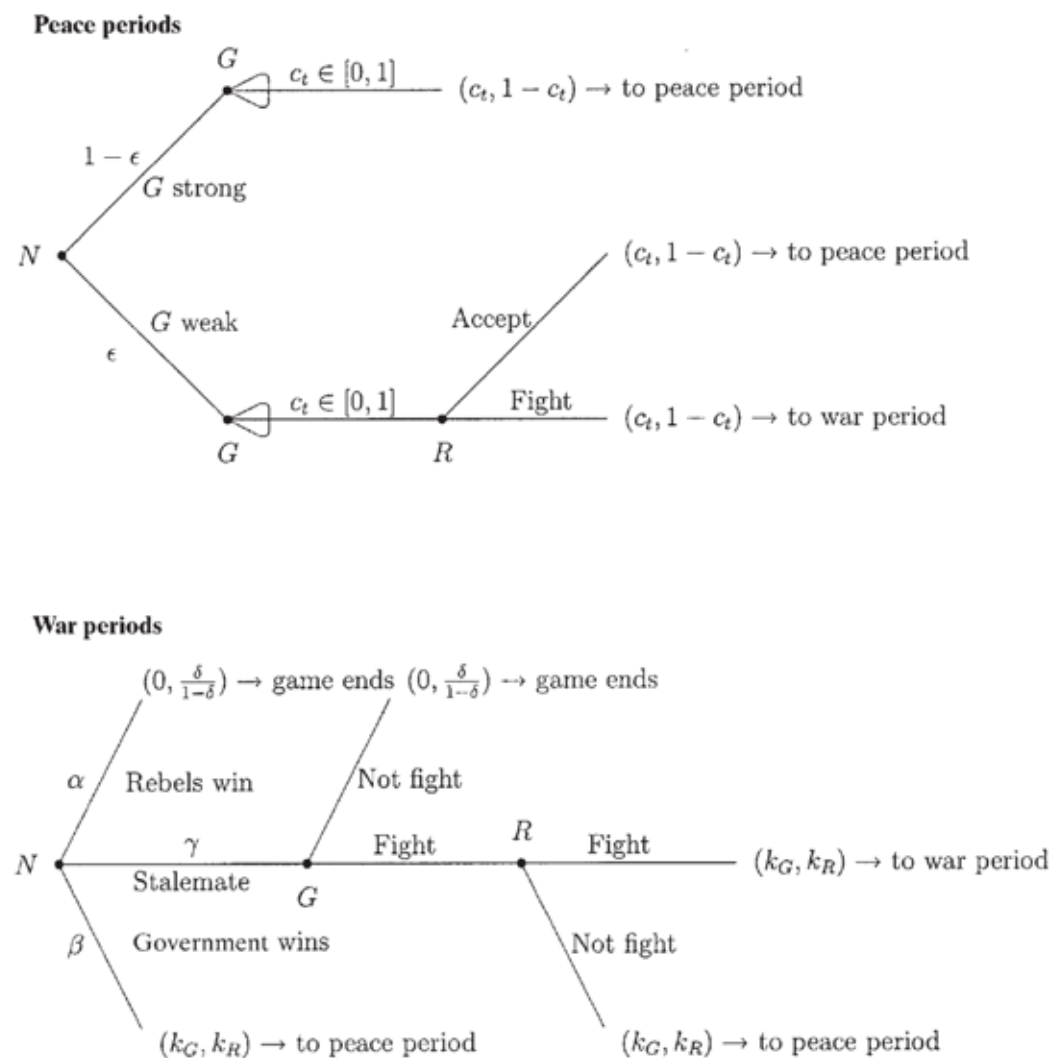
	(1)	(2)
Coup/revolution	0.320** (5.36)	0.346** (4.87)
Eastern Europe	0.330** (4.21)	0.322** (4.34)
Not contiguous	0.684 (1.62)	0.591* (2.03)
Sons of the soil	3.102** (3.86)	3.150** (3.94)
Contraband	2.562** (2.76)	2.568** (2.80)
Ethnic fractionalization ([0,1])		1.546 (1.36)

Table III. Multivariate Median and Mean Duration Estimates (in Years)

<i>Attribute</i>	<i>Median</i>	<i>95% confidence interval</i>	<i>Mean</i>	<i>95% confidence interval</i>
Coup/revolution	2.5	[1.6, 3.8]	3.1	[2.1, 4.8]
Eastern Europe	2.5	[1.5, 4.3]	3.2	[1.9, 5.5]
Not contiguous	5.3	[3.3, 8.4]	6.7	[4.2, 10.7]
Sons of the soil	23.9	[13.3, 43]	30.4	[16.9, 54.7]
Contraband finances	19.8	[10, 39.1]	25.1	[12.7, 49.8]
Cases that have none of these attributes	7.7	[6, 9.9]	9.8	[7.7, 12.5]

Estimates are for a case with only the attribute listed and no others.

Figure 3. Rebellion or Peace in a Center-Region Bargaining Game



第7回：合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論

合理的戦争原因論、民主的平和論とその対抗的議論を概観する。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第10章

第8回：内戦、テロリズム、非国家主体

内戦やテロリズムに関する国際関係論の代表的な研究を紹介する。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第12章

第9回：国際政治経済

国際政治経済をめぐる諸理論・論点をカバーする。

資料：砂原ほか『政治学の第一歩』有斐閣、第11章

第10回：グローバリゼーションと国際関係(テキスト第8章)

グローバリゼーションが国際関係に与える影響の諸側面について講義する。

第11回：情報革命と国際関係(テキスト第9章)

情報革命による国際関係が受けている様々な影響と概念(例、ソフトパワー、パブリックディプロマシー)を講義する。

第12回：現在の引火点(テキスト第7章)

教科書を参照しながら国際関係のリスク要因について分析と議論を行う。

第13回：オンライン試験